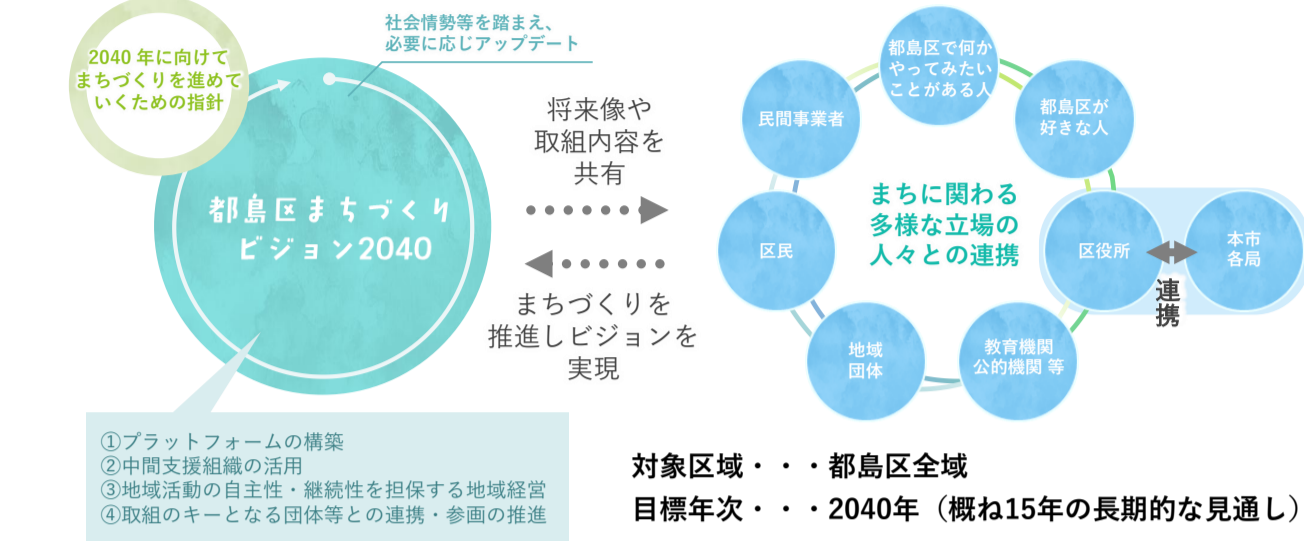


Chapter 1 はじめに

本ビジョンの目的と位置づけ

・長期的な視点での区の将来像を示し、多様な立場の人がまちづくりを進めていくための指針として、本ビジョンを策定

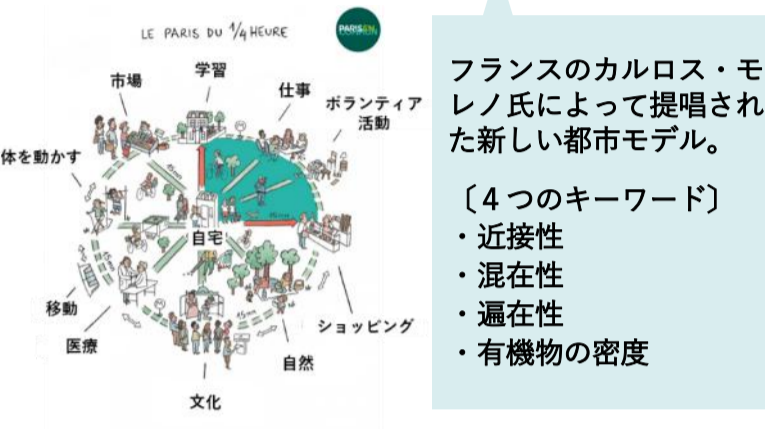


都島区まちづくりへの問題意識

- 区の資源を活かしたまちづくりに向けて**
 - 水辺・緑・歴史文化など多様な都市資源
 - 京橋駅を中心とした高い拠点性
 - 資源が点在したままで、魅力の「見える化」や回遊・滞在の促進、まちの魅力向上に十分つながっていない
 - 活用の仕掛けや発信の強化が必要
 - 既存資源をつなぎ、魅力を体感できる仕掛けづくりが重要
 - 行政に加え、地域団体・民間事業者と連携した具体的な取組の推進が必要
- コミュニティ豊かなまちづくりに向けて**
 - 人口は増加傾向だが2030年以降は減少に転じる見込み / 町会加入率も低下
 - 価値観の多様化により、人と人とのつながりが希薄化
 - 防災・福祉など地域課題は複雑化し、地縁型コミュニティの維持が困難に
 - 多様な主体（企業・団体・行政等）が連携し、地域を支える仕組みづくりが重要
 - 日常的に無理なく関われる機会を創出し、担い手を広げていくことが必要

まちづくりのトレンド

- まちづくりは車中心から人中心へ ウェルビーイングが重視される今
- 脱炭素・気候変動への意識の高まり
- デジタル技術の活用 (DX)
- 世界的に注目を集める「15分都市」の考え方



上位・関連計画

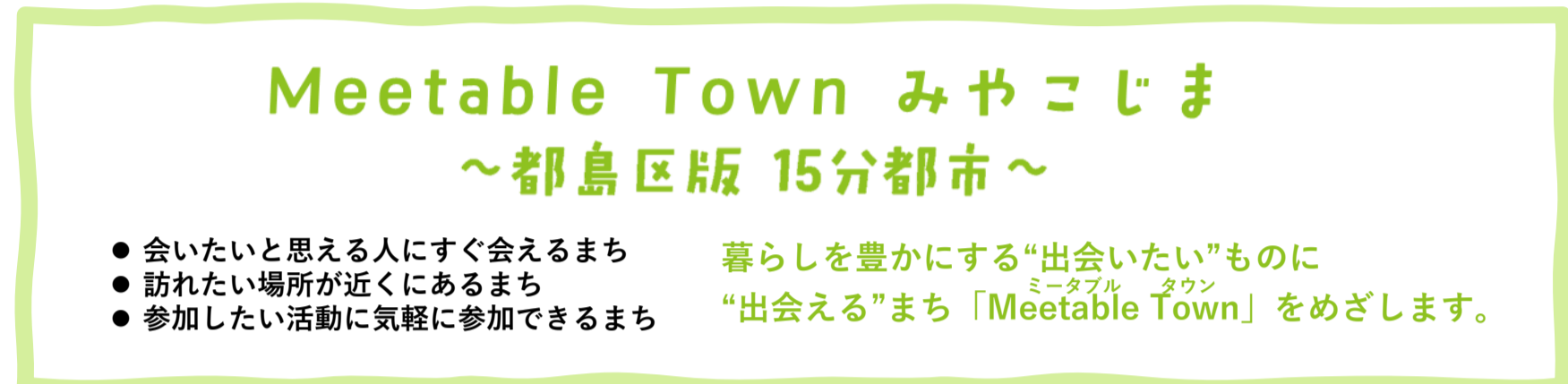
- ビヨンド エキスポ Beyond EXPO 2025
- 大阪のまちづくりグランドデザイン
- 大阪城公園周辺地域まちづくり方針
- 大阪市緑の基本計画 (2026)

Chapter 3 めざしたい都島区の2040年の姿

都島区まちづくりで大切にしたい考え方

- 2040年に向けて大切にしたい考え方
 - ①暮らしの基盤の維持・アップデート
 - ②つながりと連携を感じられる地域社会づくり
 - ③クリエイティブに暮らしを変えていくマインド

まちづくりのコンセプト・生み出したいまちの姿



Chapter 4 ビジョンの実現に向けたアプローチ

ビジョンを活かすべき機会と各主体の役割

区民一人ひとり ○今の暮らしに少しの変化を得たいとき	民間事業者 ○新しい事業を検討するとき ○開発事業など不動産を活用しようとするとき	地域団体 ○従来の取組の継続が難しくなったとき ○新たな取組を検討しようとするとき	行政(市・区) ○新たな施策を立案するとき ○立案した制度の運用や、具体的な事業内容を検討するとき
【役割】 ・まちづくりビジョンの実現に向けて、活動・事業を展開します ・区内個別のエリアのまちづくりが具体化する際は、本ビジョンに整合しつつ、より解像度の高いエリア・ビジョンを策定するなど目標を共有します			【役割】 ・ビジョンの実現に向けて各種施策・事業を展開 ・都島区役所と大阪市各局の連携

ビジョンの実現に向けた取組の方向性

①まちづくりのステップに応じた取組支援

みんなの取組	区の応援
発意する/やってみる	スタートアップ支援 ・人材掘り起こし、情報支援等
つながる/仲間をつくる	ステップアップ支援 ・エリアPF構築支援等
共有する	コンセンサス支援 ・エリアビジョン策定支援等
ことをなす	ローンチング支援 ・制度や公共空間活用支援等

②区民のまちづくりを応援する区内まちづくりプラットフォームの構築

区民の「やってみよう」という意向をくみ取り、具体化していくためのサポートを図る区内まちづくりプラットフォーム(みやこじまFanプール)の構築を図ります。

③まちづくりのパイロット・プロジェクトの構築

まちづくりの先導的なモデルとなる取組を立ち上げ、活動の拡大と持続可能な運営体制の構築を進めます。

ターゲット・エリア
 京橋エリア | Green Oasis Miyakojima in京橋

リーディング・エリア
 淀川エリア | 都島 Meets NATURE

ビジョンの実現に向けたロードマップ



Chapter 2 都島区の「いま」

都島区の「いま」を分析する4つの視点

15分都市の考え方を基軸に4つの視点で都島区を分析

視点1 生活を支える都市の「便利さ」 --- 近接性

- 梅田やなんばなどの都心に近く、公共交通が発達しており、利便性が高い
- 生活利便施設も概ね徒歩圏内に充実

視点2 暮らしに選択肢を生む「まちの多様さ」 --- 混在性

- 大規模な工場跡地などをうまく活用し、昔から生活の営みがある地域と新しいまちの調和をとりつつ、住まいと働く場のバランスが取れたまちづくりが進んできた
- 北部~南部まで、エリアごとに特徴のある土地利用、居住者層



視点3 都市の利便性を補う「サービスや情報へのアクセスの容易さ」 --- 遍在性

- シェア型モビリティなどのサービスが普及しつつあるが、一部、利用しにくい地域も
- Webサービスの普及には利用率の向上も課題
- 区の情報を区内外に届ける発信力の強化が必要

視点4 暮らしの質を高める愉しみの「豊かさ」 --- 有機物の密度

- 豊かな自然環境やコミュニティの場、サードプレイス、魅力的な人などの資源は豊富にある状況
- 一方で利用は限定的で、日常は買い物や送迎など「必要な行動」に偏りがち

区民、民間事業者、有識者に聞いた都島区の特徴と魅力

- 【水辺の特徴と魅力】**
 - 都島区らしさを活かすカギは「川」と「緑」
 - 桜並木や公園、三方の河川など、日常の風景として自然が身近にある ...etc
- 【京橋エリアの特徴と魅力】**
 - 京橋はヒガシの「ハブ」になるポテンシャルがある
 - 京橋~OBP~京橋公園をつなぐ回遊動線の形成が重要
 - 京橋駅の魅力と安全性を高め、広域拠点としての価値を再構築 ...etc
- 【まちなかの特徴と魅力】**
 - 住環境が良く、転入してくる人も多い
 - 南北移動と鉄道空白地帯の利便性向上が課題
 - 団地や緑道など既存ストックの解放・活用がカギ
 - 独立開業などにチャレンジしやすい土壌がある
 - 都心アクセス(約15分)・区内拠点の近接性・身近な生活圏という、多層的なレイヤーが重なる点が都島区の最大の魅力 ...etc
- 【まち全体に関わるキーワード】**
 - 区の魅力や資源を発信する仕組みの強化が必要
 - 日常的な交流と健康活動を支える場づくりが重要
 - 人流データ等に基づく空間整備とICT活用の推進が必要 ...etc

区内で特筆すべきまちづくりの動き

- 京橋エリア** 上位計画において、国際観光拠点として位置づけられ、都市再生緊急整備地域に指定されるなど、大阪の「ヒガシ」の玄関口として、さまざまな取組が進められている
- 淀川エリア** 淀川大堰開門の運用が開始され、さらなる舟運の活性化が期待される

交通の便が良く優良な住環境がある一方で、その地域資源や魅力をまだ活かされていない

